

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真 1) (表 1) などと文中に記載し、右ページに(写真 1) (表 1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. C-27

部門名：地域とともにある学校実践部門
 エントリー名：富山県砺波市立出町小学校 北田邦弘
 平成 30 年度第 4 回副校長・教頭等研修

活動名：学校ビジョンと戦略 学校の「強み」を再認識して生かす

解決すべき課題：地域の教材の豊富さや子供たちのこれまでの育ちなど、本校には学校としての強みがたくさんある。しかし、本校に勤務している教職員の中にはその「強み」をあまり意識しないままに日々の教育活動を行い、趣旨を十分に理解しないまま「これまでも行ってきたから」等の理由から同じ活動を行うことがある。改めて学校の強みを考えることで、これまでの活動の意義を考えると共に新たなアイデアを出す場としたい。兵庫教育大 浅野良一先生の「学校ビジョンと戦略」の講義・演習を通して「現在あるものを生かす」ことの大切さを学んだ。

目標・方針：今年度の学校の「強み」を、外部環境の支援的要因は「地域」、「保護者」「その他」の観点から、内部環境は「児童」「教職員」「設備」「その他」を出し合い、その活用の方策を探る。

活動内容：

①説明→②個人で「強み」を考える。→③グループでまとめ、活用法の検討→④発表・共有

活動の成果：

- ・学校の「強み」は普段からなんとなく感じているものの、文字化し、共有することで再認識することができた。
- ・「強み」に特化することで、これまで気付かなかった学校の良さに気付くことができた。
- ・年代別のグループにすることで、それぞれの年代が考える「強み」に違いが出た。
- ・ベテラングループから出された「強み」の一つである「それぞれの教師が力をもっている」ということは、若手教員へメッセージを送る場にもなった。

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- ・年代別グループにすることで、それぞれの年代の考え方を知ることができる。
- ・個人からグループへ。そして全体での紹介へ。
- ・2 学期はじめに行い、2 学期以降の活動に生かす。
- ・一般的な「SWOT 分析」は、「阻害的要因」「弱み」を考えるが、「支援的要因」「強み」のみを考えた。

<写真、図表添付欄>

① 個人で、「強み」を書き出す。



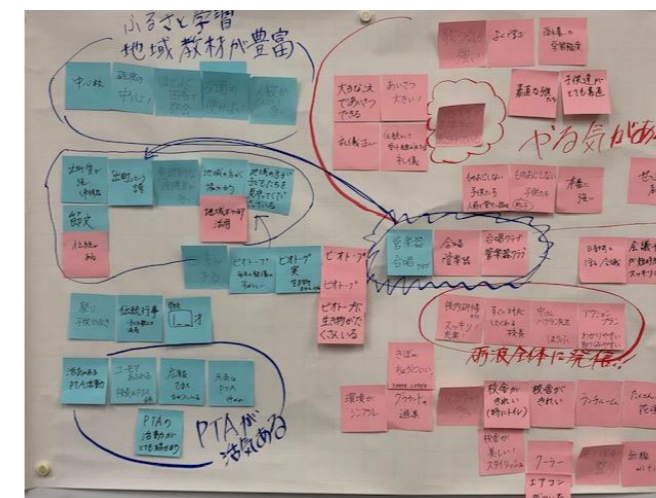
② グループで出し合い、まとめる。



③ 「強み」を活用する方法を検討する。



④ 発表し、全員で共有する。



<付箋に書いた「強み」をグループごとにまとめたもの>

<感想>

- ・分かってはいたけどいつもは意識しないような「強み」や、自分で気付いていない「強み」を話し合うことで、明日からさらに子供たちに優しく、笑顔で接していこうという気持ちになった。（若手教員）
- ・「学校の特色」→「強み」→「生かす」ということについて全職員で話し合える場が良かった。（中堅教員）
- ・なんとなく見ているものが視点をもって見直すことで感じ方が変わる。本校の「強み」を再認識した。（ベテラン教員）